

岩槻協議会 会報

第25号

人生一〇〇年時代

「笑顔あふれる岩協」を

岩槻協議会会長

山崎 照彦



会員の皆様、ご健勝の事と存じます。私も気が付いたら入学して七年にもなりました。今年度の会長職を担い、皆様のご協力により大任を果たす事が出来ました。

一昨年二月、新型コロナウイルス感染症のことをニュースで知って以降、感染拡大が予想以上に

広がりました。これによって各期に於いても、行事計画の見直し、又協議会も計画の中止等が余儀なくされました。

今年度はそれでも、前期・後期のグラウンド・ゴルフ大会、学習講演会、ボウリング大会を開催することが出来ました。

コロナ禍の為、各期交流会が実施で出来なかったのはまことに残念でした。

新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が減少してまいりましたが、いまだに諸外国においては猛威をふるっており嚴重な警戒が必要となっております。

新生活様式・三密の回避・マスクの着用・手洗いの励行を心掛けて頂き【自分の健康は自分で守る】ことを切望いたします。

人生一〇〇年時代を明るく・楽しく・元氣良く生きたいものです。「みんなが笑顔になり、楽しいひと時を過ごせる」そんな岩槻協議会を、全員一丸となって築き上げたいと思います。

この一年間、皆様より頂いたご指導ご鞭撻、まことに有りがたうございました。

連合会の現況報告

「何がどう変わったか」

岩協顧問 瀧田和雄

先ず最初に、令和三年度に連合において大改革がなされたことからご報告いたします。

令和二年度当初、プロジェクト委員会が立ち上げられました。その趣旨は、これまでの連合における役員の順番制による、各校の負担の軽減を図るには、何をどう改革したらよいかという問題提起でありました。

一年間にわたる議論の結果、「役員専任制」という新しい制度が誕生しました。これまで各協議会の順番制であった、最も負担が大きかった総務部長と企画部長を、三年の任期で専任化するという画期的な組織改革でありました。そのためには各専任部長に相應の費用支給が発生することになりました。こうして、順番制による企画部長と総務部長の任務負担が無くなり、各協議会は責任と負担という重圧から離れることができるようになりました。

今年度から企画部長に就任された東浦和校の山本部長は、次々とこれまでの連合の活動にはなかった新企画を提案され、新しい連合会の運営に着手されておられます。

連合会のかかる変革の結果、一言でいえば各校の任務負担が大幅に軽減されたということで、これによって各校は安心して連合会活動が出来るようになりました。

ご存知の通り、我が岩協は今年度から連合会を休会しております。しかるに、連合会の各協議会の方々は、休会中であるにも拘わらず、これまで同様に温かく接してください。我が岩協の一日も早い復帰を待ち望んでおられます。

岩槻協議会も連合会同様、様々な問題点を抱え、その解決に鋭意努力中と聞き及んでいます。その結果と方向性が近く示されることとが期待されております。岩協の改革が軌道に乗れば、速やかに連合に復帰して、新しく参加してこられるであろう一七期以降の新会員の皆様ともども、かつてのようにはどうでしょうか。オプザーバーとして連合会の会議に参加

してまいりました者として、私が痛感しておりますことを末尾にお伝えさせていただきました。

岩協の組織改革は途半ば

岩協副会長 森 義信

企画部を解体して、事業を各期で分担するシステムに移行しました。その初年度として、夏と秋のグラウンド・ゴルフ大会を七期・八期、秋の学習講演会を九期、ポウリング大会を五期が実施しました。春の学習講演会は十二期が実施予定です。事業への参加者数は延べで三百名を越えますが、会員数に比してなお参加率が低いと言えます。

他方、コロナ禍のために、各期交流会（二期・四期共催）とバス旅行（十一期）が中止のやむなきに至りました。

令和四年度の企画事業の分担については現在調整中ですが、ジャズを楽しむ会、学習講演会などの企画が出されています。また、健康活動関連のポウリングなどの企画や各期が独自に実施する

企画に、ほかの期からの参加も可能にする呼びかけなどの提案もあります。

令和四年度は、岩協の会長と総務部長を十二期が担当します。一期から始まった役職の順番制は、この年度で途切れることとなります。

令和五年度以降は、会長と理事会での議論の結果、「共同代表制」をとることになりました。二つの期の会長か理事が「共同代表」となります。二人が協力して岩協をリードしていく体制にするこ

とによって、一つの期の負担を軽減する、半分にするという趣旨です。シニア大学の面々は押しなべて高齢です。老人力はありますが、うっかり忘れてしまうことも多く、時に失敗もありますから、相互に助け合ってやっつけていこうという事です。二人のうちのどちらかが真の代表というわけではありません。外部に向かっても「共同代表」です。

改革の総仕上げは、総務部や広報部などの仕事も分担制にすることです。総務部の仕事は、

- A 会議の招集と書類の管理、
- B 会計や決算業務、
- C 社会活動などの事業担当、と

多岐にわたります。今まではこれらを一つの期で担当していたのですから、負担は相当大きなものでした。これらA、B、Cを切り離し、

広報部のD、会報の発行とHPの管理運営、という仕事を加えて、都合四つのジャンルから、各期ができる範囲のものを選んで担当するという仕組みにします。

これはとても大きな改革です。これがうまく軌道に乗ってくれば、岩協は生まれ変われます。令和四年度を準備の期間として、皆さんのご協力・ご尽力を得て、なんとしても力強い再生を果したいものと念じています。

言うまでもなく、岩協は現在在籍中の二期から一五期までのものだけではありません。一七期とそれ以降も続いて加入して来られるであろう後輩たちのものでもあります。彼らが引き継ぎつつ、時代にあった組織、形にしていってくれるものと期待しています。

秋のグラウンド・ゴルフ

大会報告記

実行委員長 藪崎勝利（八期）

令和三年九月二十八日（火）午後

岩槻文化公園 陸上競技場

参加者数七〇名

木の葉が色付く岩槻文化公園グラウンドに集まった参加者の皆さんには、自己ベスト更新を目指すエネルギーが漲っているように見えました。

大会委員長山崎会長のユーモア溢れる開催の挨拶に始まり、競技規則の説明後、スタートホールに移動し、準備運動の後、いよいよプレーが始まりました。

綺麗なクラブスイングから弾け出たボールは、真っ直ぐホールポストに向かって転がっていき、アチコチのチンが出たようです。あちこちのチームから歓声が上がりました。

表彰式では入賞された男女各五人の皆さんの優しい笑顔が印象的でした。今大会は男女それぞれ次の方々が表彰されました。



- 男性 優勝 三井健三(8期)
- 72 (2) 春秋連覇です
- 女性 優勝 今井雪子(7期)
- 79 (1)
- 2位 町田 茂(9期) 75 (1)
- 2位 小林喜代子(12期) 79 (1)
- 3位 竹村 進(12期) 76 (1)
- 3位 萩原マリ子(8期) 80 (1)
- 4位 篠崎弘征(8期) 78 (2)
- 4位 大貫良子(8期) 81 (1)
- 5位 永盛好男(8期) 78 (1)
- 5位 新井文枝(7期) 82 (2)

また、ラッキー賞(男女各5名)とホールインワン賞の表彰も行われました。上段表彰者の()内はホールインワン数。

末尾になりましたが、大会開催にあたりまして、ご支援、ご協力をいただきました各期校友会の運営委員の皆様、八期実行委員の皆様、大変有難うございました。

前期学習講演会

「塙保己一の生涯」

講師 長谷川典明氏

昨年開催が見送られてきた学習講演会が、十月十二日午後、本丸公民館で開催された。

今回の講師に埼玉三偉人の一人である盲目の国学者である塙保己一の伝道者であられる長谷川典明先生をお招きして、その生涯と著書である『群書類従』について詳しく解説をいただいた。当日は各期から八七名の参加者があり、熱心にメモを取っておられ、コロナ禍の中、この時期としては盛会であった。

『群書類従』とは塙保己一が編纂した国学・国史などを主とす

る一大叢書で学術的な研究に多大な貢献をした。保己一がこの『群書類従』の編纂を思いついたきっかけは、これまで残されてきた貴重な古書の散逸を危惧したからにほかならず、一七七九年に菅原道真を奉る北野天満宮に刊行を誓い、江戸幕府や諸大名・神社・公家などの協力を得て、収集・編纂したものである。古代から江戸時代初期までに成った史書や文学作品、合計一二七三種を収めている。のちに寛政五年(一七九三年)から文政二年(一八一九年)にかけて木版で刊行された。



保己一の有名な言葉に「世のため、後のため」というものがあるが、これは『群書類従』の編纂に当たり、後世への遺産として、不

撓不屈の精神で努力した心の内を披露したものである。(開催主管は九期)

ボウリング大会開催報告記

実行委員長 藤本信夫(五期)

令和三年度 第一回目のボウリング大会が、春日部ターキーボウルで、十二月七日岩槻協議会として初めて行われました。参加者は二十四名(女性十一名、男性十三名)でした。



ラジオ体操のあと、五分間の練習があり、いざスタート。気持ち

は青春時代で勢い良く始まりましたが、だんだんとスコアは年相応となり、ボールの重さを変えたりしました。若い頃のスコアの思い出話をするなど、賑やかな楽しい時間を過ごしました。なによりも、各期との交流が出来たことが、何にもまして幸いでした。全員が二ゲームを投げきり、笑顔で満足し、お互いを讃えつて終わりました。



入賞者に景品授与

今回はか弱い？女性陣をいたわってハンデ三〇点を差し上げましたが、全く必要がなかったようです。

- 優勝 河内良子（12期）
- 二位 草野和子（12期）
- 三位 迫 雍子（11期）

ハイゲーム賞

河内良子（12期）

すべて女性に独占されました。今回は男性頑張りましょう！

私の旅遍歴

二期 千葉勝彦

会社定年前からの夢であった日本全国旅遍歴が始まったのは、六十二歳の時である。最初の旅は「チャリンコ奥の細道一人旅」です。江戸時代の俳人、松尾芭蕉と弟子の曾良が歩いた道を折り畳み自転車で走ることになりました。約三千キロの行程を五十八日間で走破しました。名所旧跡、自然の風景、名物料理、地方の人々との温かい交流と、存分に楽しむことができました。

次の旅は「五街道歩っ歩一人旅」東海道、中山道、奥州街道、甲州街道、日光街道を徒歩で旅しようというものです。まずは東海道五十三次。東京の日本橋から京都の三条大橋まで、江戸時代に安藤広重が描いた浮世絵の五十三の宿場を巡る旅でもありました。浮世

絵の面影が残っているとところもあり、感激の二十四日間でした。

次は中山道六十九次。東海道は海辺の道、中山道は山辺の道です。中山道の中でも特に庄巻なのは木曾街道十一の宿場の風景である。明治の文豪島崎藤村の「夜明け前」冒頭の「木曾路はすべて山の中である」の名文通りの姿があった。特に奈良井宿、妻籠宿、馬籠宿は、時代劇映画のロケ現場に紛れ込んだかのような錯覚を覚えた二十八日間の旅でした。また、そのほかの三街道も地方色豊かで楽しく歩くことができました。

次は「琵琶湖一周」の旅。この地区は、奈良、平安時代から戦国時代にかけての歴史の宝庫といっても過言ではなく、比叡山延暦寺、日吉大社、三井寺、義仲寺、安土城、瀬田の唐橋、湖東三山等々見所満杯であった。

最後に山登りの友人と計画したのが「日本一周ドライブ旅行」である。一年に三回、三十日、これを五年続ける。車中泊、テント泊、民宿泊を交互にした。北海道、本州、九州、四国をくまなく回り、見聞を広めることができたこと

を喜んでいきます。

私の旅遍歴もここらで終わりになるかと思いますが、こんな日本に生まれ、育ったことをうれしく思っています。

四期のリズムクイーン

部長 式田 千代子

私達四期十一名の乙女は一ヶ月に二回リズム体操を楽しんでいます。隔月に先生に来ていただき、楽しい曲に挑戦して校友会の芸能発表では、皆さまに見ていただいています。コロナで発表の場がなく張り合いがありません。部員からの一言です。

・老骨に鞭打ってリハビリのつもりで仲間たちと楽しんでいきます。これからも続けていけたらと思います。 真辺 彰子

・好むものには深く入れるのに、リズム体操は苦手です。仲間がいるから参加をしています。心入らず今も棒立ちで踊る私です。

越田 実

・ダンスは苦手だが健康の為参

加している。先生の指導の時は筋肉痛になるが何故かその夜は心地よく眠れます。 渡辺 幸子

・リズム体操で思い出があるのはダンスングクイーンです。これからも色々な曲を習って行きたいと思います。 須田久美子

・先生は「パプリカ」を可愛く踊ってとおっしゃる。手の指を大きく広げ体をリズムカルに左右に振って踊る。心も体もウキウキする。 依田美智子

・ダンスングクイーン、恋の季節、銀座カンカン娘等、リズムに乗って楽しく踊っています。

阿久津あき子

・現在「パプリカ」練習中、年を忘れ五本の指を広げ踊る自分の姿、「ウフフ」で笑い楽しく、メンバーに感謝しながら続く限り。

佐藤 弘子

・お互い仲間の気持ちを感じながら心ときめく曲に乗って動かすことが、とても幸せです。帰る頃には皆が増々の笑顔です。

渡辺 道子

・四期の皆さんとりズム体操をやり始め早十余年、今日まで続けてこられたのは何よりもよき仲間間に恵まれたからと思います。

志賀セツ子

・リズム体操の仲間の皆さん！運動音痴のこの私を、これまで有り難う（感謝）。そしてこれからも（願望）。 早瀬 邦子



運転免許証の取得と返納

五期 新井 茂

私は、平成四年八月四日付で四十二年余り勤務した郵便局を退職しました。

在勤中、二回の単身赴任を経験したり、片道二時間以上かかる所も三局ありました。通勤疲れで、日曜日は休養日でした。退職をしましたが、幸い第二の職場に勤務することができ、

責任のないところで体力的にも気持ちの上でも余裕ができ、運転免許取得に挑戦する気になりました。

年齢的（五十九歳）にも運転のやさしいオートマを選びました。第二の職場へ通勤しながら、土曜・日曜の学習は、実地の予約も取りにくく、四か月で実地の合格となりました。

学科試験は、鴻巣の免許センターで受験し一回で合格しました。平成五年二月十二日免許証を手に入れました。

早速新車を購入し、久伊豆神社で安全運転の祈願を受けて指導者なしのひとり運転をしました。ダンブカーとのすれ違いは大変怖かったです。

運転免許証の取得により、行動範囲も広がり多くの趣味ができました。俳句、社交ダンス、太極拳、カラオケ、グラウンドゴルフ等です。

令和二年七月誕生日を迎え、免許更新も間近となり、車の車検切れも重なり、二十八年間の無事故・無違反を誇りとして免許返納を決意しました。免許返

納は、他人に勧められることではありません。

免許返納後は、自転車が私の足です。無理をせず、安全運転で健康増進と排出ガスゼロで地球温暖化防止に努めます。

天空のトレッキング

七期 須賀由見子

コロナ禍にあり仲々出かけられなかったが、緊急事態宣言解除の報に七期のハイキングを実行した。十月五、六日、目的地は中央アルプスの千畳敷カール一泊二日の山旅だ。

久々なのでワクワク心躍る。雲一つ無い青空を見ながら六人で新宿バスタより駒ヶ根行に乗った。ホテルに着き、荷物を預けすぐホテル周辺を散策、地図を見ながら歩いていくつもりなのに何故か目的地に着かない、ようやく光前寺に到着して見ればホテルのすぐ近くでした。

遠回りしながら二時間の散策でしたが光前寺は歴史ある立派なお寺です。石畳みの歩道を進むと道沿いには光苔が美しく、落ち

着いた雰囲気です。パワースポットですね。ホテルのコロナ対策は万全で、入浴、食事などすべて二部制でした。

翌日も好天に恵まれ、待望のトレッキングに出発、ホテル前よりバスにて「しらび平」へ、そしてロープウエーで千畳敷へ、眼下に広がる今年の紅葉も素晴らしく、ロープウエーから見えた山肌を流れ落ちる一筋の滝の美しさは絶景でした。



標高二千六百mを超える千畳敷カールは雲の上の世界、青い空、流れる雲、切り立った山々が連なり素晴らしい光景にウットリ、「登山者があんな所を登っている」と下から見えたあの稜線には

どんな景色が待っているのか？ ああいつかあそこに登ってみたいと思うことしきりでした。余りお喋りは出来なかったが、山を眺めていけばご機嫌な仲間と同じ空気を吸っているだけで幸せ、楽しい山旅でした。

花の箱

八期 佐々木 和子

私の趣味はお菓子の箱の蓋に絵を描くこと。絵と言っても庭の水仙や土手で摘んだ草花などを自己流に適当にアレンジして描き、ひとこと言葉を添える。

蓋が無地の菓子箱を頂くと、中味より箱の方が気になってしまふ。中味は早々に夫と私のお腹の中に収まる。

散歩などめったにしない私だが、この箱に何を描こうかと考えると、今頃は彼処のあの辺りにはどんな花が咲いているかと気になる。

今はスマホで写真を撮るが、やはり生のお花が欲しい。色の風合いや、花びらの襞、花芯や萼の形、写真では分からない花のみずみ

ずしさを見たい。それで道端や野原の花を二、三本失敬して摘んでくる。花瓶に差し、一本の花を四方の角度から眺め、沢山の花を描く。



花の縁取りはうす墨のサインペン、色彩は水性のカラーマーカー。凝って描きたい時は絵手紙の顔彩絵の具を引っ張り出す。

短い言葉を書き、最後に朱印を捺すと絵が引き締まる。

只の箱が花の箱になり、領収書入れや小物入れになる。

美大生の孫娘は「おばあちゃん上手、でも人に見せて自慢しない方がいいよ」と笑いながら言った。

夫は「いいね」と喜んで使ってくれる。花の箱は、ますます増えそうである。

九期の特色について

榎木正直

平成三十一年度事業計画に、「会員によるスピーチ」を盛り込み、会員が自由なテーマでその方の「思い出」や「体験談」を語る機会を設けました。

第一回目

Kさんは、「古希を迎え素浪人の独白」としてこれからどう過ごすかを思案し、城山三郎の著書「この日・この空・この私」から引用した六ヶ条を生活の心得としたそうです。

Nさんは、「くすり」がいかにして我々の手元に届くかまでのお話を開発から臨床試験などの研究課程を説明されました。

Tさんは、幼き頃の「我が故郷釜山の思い出」とともに戦後の配給時代を思い出しながら、現在の楽しさを語られました。

第二回目

Mさんは、永年水道事業に携わられた経験から水にまつわる様々なお話を伺いました。特に何となく利用していた「水」の価値と云うものを改めて考えること

が出来ました。

Nさんは、私の履歴書として誕生から二十五歳までの人生を画像によつてまとめられ、一生の仕事とされた「消防士」となるまでの話をされました。

第三回目は、女性会員です

Uさんは、ご自身が過去にボランティア活動をされていた「手話」についての一考察を語られ、次に手話による日常会話を例に、形の意味などを分かりやすく教えて頂きました。

Tさんは、「庚申信仰」について、思想の由来や風習についての話と地元の遺跡などを紹介して頂きました。

Mさんは、民話の語り部として永年ボランティア活動をされており、今回は、芥川龍之介の「蜘蛛の糸」の実演でした。

こうした会員が各自それぞれに自由なテーマでその人の思いや体験談などを語る機会は初めての試みであった。興味のない人もあるいは心から驚嘆される人もそれぞれである。

今後も継続できれば楽しいと思います。

「私の故郷は桃源郷」

十一期 中島吉丸

今年、一年延期の2020東京オリンピックで、野球、ソフトボール会場となり、振る舞われた地産桃が、海外選手団に絶賛されたと聞きました。それは、袋を掛けないで日光をたっぷり浴びて糖度が上がった「あかつき桃」と聞いています。

複数の果物を手掛けています。桃の生産量は全国第二位だそうです。私は、果樹園農家の三男として生を受けて七十余年、故郷は、サクランボ、桃、梨、リンゴ、ぶどう、柿等、色々な果物を生産し出荷していてフルーツには何となく過ぎてきました。

春四月下旬～五月中旬、家の前の山や愛宕山に登り信達平野を望めば、サクランボ、桃、桜等花の競演が、淡いピンクの雲海となつて現れ、口では表現の出来ない美しさが一週間程続きます。又、愛宕山では獅子舞が四月二四日に行われ、翌日は早朝から夜中近

くまで各部落を一戸々回り、家内安全、五穀豊穡を祝う行事があります。五月末になると果樹農家は

大変な時期を向かえます、「農繁期」です。昔、十五～十六歳の頃は、一週間位の農繁期休みがあり、

一家総出の他に従兄弟も、桃等の摘果と袋掛けのお手伝いをしました。袋掛けの袋はB5くらいの大きさで、一本の桃の木二五〇袋位膨らまし、梅の実ほどの大きさの桃の実を包み込みます。これが終われば、次はリンゴと梨の摘果作業で、大きな実を一つ残す作業に入ります。旧盆を向かえる頃になると白桃が出始めて、父母、兄、兄嫁等が早朝暗い内からの総出となり、箱詰作業が午前中に終わり出荷、それが一ヶ月位続きます。最後のリンゴまで入れると十一月末まで続きます。

これは私の遠い昔話でした。今は、温暖化の影響で果樹栽培が大変になっていると聞き及んでいます。写真家の秋山庄太郎が、福島を訪れて、花卉栽培で山全体が春咲く色々な花が咲き乱れて

いるのを、桃源郷と表現して紹介したのが、今では一大観光地として有名な花見山です。

何時何時までも残したい私の故郷の風景です。

コロナウイルスからの手紙

十二期 河原塚 成江

地球は嘯きました、でもあなたは耳を貸さなかった。

地球は話しました、

でもあなたは聞かなかつた。

地球は叫びました、

でもあなたは耳を塞いだ。

そして私は生まれました

私はあなたを罰するために

生まれたのではありません。

私はあなたの目を覚ます

ために生まれたのです。

(ヴィヴィアンリーチ作の一部)

この詩を友達から送ってもらったのは春頃でしょうか、インターネットで見つけたそうです。

コロナウイルスからの手紙は強烈でした。がんじがらめに縛られているような閉塞感の中でこの

ように言葉で指摘されて考えさせられました。

今地球の温暖化、異常気象、みんな人間が支配できると錯覚してしまった自然界の逆襲だったのだと、突き付けられました。



私たちシニア大学で学んだものとして、また人生の折り返しを生きるものとして考えさせられたコロナ禍の出来事でした。早く収束を願う時、この詩の意味を十分に聞き、目を覚ますべきだと思いました。

私たちの期も細々と定例会を開いています。こんなに人と会えない、お喋り出来ない、外に出

られないことで、生きることのむなしさを感じたのは、今までの人生初めての経験でした。先日は二期で子どものようにみんなゲームをし、久しぶりに大笑いし、身体を動かし楽しい時間を過ごしました。大切な時間でした。

岩槻協議会に加入して

十五期 山口 満

我々、十五期は令和三年度より仲間入りして、早いものであつという間に一年が過ぎようとしています。諸先輩方々よりご指導を受けながら今日まで来ることが出来ました。

手探りながら一年間の活動計画を立て色々なイベントを行いました。昨年は、大河ドラマでの「渋沢栄一」ブームもあり、四月には、県立博物館での特別展「渋沢栄一のみながし」見学に始まり、実際に深谷を訪ね「記念館見学とアンドロイドを聞き」生誕の家「中の家」も見学し、(皆、感動の充実した一日を過ごしました。また、校外イベントでは、他に、

小江戸川越散策も実施し、蔵造りの街並みと歴史に触れ、まるでタイムスリップしたような良き思い出をつくる事が出来ました。一方、座学では「相続と遺言」、「さいたま市地域の歴史」、「認知症の予防」と多種多様な勉強を通し、今後の人生の一助にする活動も行いました。

次年度は、岩槻協議会の行事への積極的参加と、さらに、十五期内の充実を図っていきたくてお願い致します。



渋沢栄一生誕の家「中の家」

編集後記

足掛け三年目に入った新型コロナウイルス感染症の世界的流行の中で、私も高齢者は息を潜めて生きています。岩槻校友会の活動のともし火を絶やすまいと、静かに蠢いています。この会報二五号はその証です。

今年度の広報部長を担当したのは十二期でしたが、もちろん各期から選ばれた部員の方々の協力があつて初めて本号の発行が実現しました。校友の皆さんにお読みいただければ、広報部員としては嬉しい限りです。